

1. 武烈天皇の死後、王統は断絶する。この危機に対して越前から継体天皇を擁立した人物を答えなさい。
2. 上記1の人物は、540年に加耶割譲問題で物部尾輿に弾劾されて失脚する。尾輿は崇仏論争で蘇我稲目と対立するが、この対立は子孫の代にまで引き継がれる。尾輿の子孫で、蘇我馬子に打倒されたのは誰か。
3. 589年の隋の中国統一に対し、蘇我馬子が権力を集中した結果、崇峻天皇が殺害される。この危機を收拾するため、推古天皇を擁立させ、東アジアの国際政治に対処することになるが、推古の甥で推古・馬子と共に政務に参加し、後に聖徳太子と呼ばれた人物は誰か。
4. 上記3の人物は隋との外交のために遣隋使を派遣する。600年の第一次遣隋使の交渉不調を受けて国内では冠位十二階・憲法十七条を制定して国家整備を行い、607年に再び遣隋使を送ることになる。この第二次遣隋使では「天子」という称号を使い、中国に臣属しない形をとったので、煬帝を激怒させる。しかし、隋は高句麗との戦争のため、倭国が高句麗と結びつくことを嫌って、返礼使を派遣する。この返礼使は誰か。
5. 618年、隋が滅んで唐が起こると、東アジアではひきつづき権力の集中が政治目標とされた。日本では蘇我馬子の跡を継いだ蝦夷の子が、643年に厩戸王の子である山背大兄王を滅ぼして権力集中を図った。このようにして、蘇我氏系の天皇のもとで蘇我氏が権力を振るうという権力集中を目指した蝦夷の子は誰か。
6. 蘇我氏に対して中大兄皇子は官僚制的な中央集権国家を確立し、権力集中を図ろうとした。そのため、乙巳の変というクーデターで蘇我氏を倒し、諸改革を行った。その改革の一つで、従来豪族が所有していた私有地である田荘と所有民である部曲を廃止し、土地と人民を国家のものとした政策をなんというか。
7. 中大兄皇子と斉明天皇は、百濟滅亡後、百濟を復興して朝鮮半島における倭国の優位性を復活させようとする目論見、百濟救済の大軍を送ることを決意した。斉明天皇は九州で死んだが、中大兄皇子はそのまま称制して戦争指導を行った。だが、663年に唐・新羅連合軍に大敗する結果となった。この戦争を何というか。
8. 上記7の戦争の敗北後、中大兄皇子は国防政策をとり、水城や朝鮮式山城を建設し、都を飛鳥から近江へと移して、天智天皇として即位した。天智天皇は国土防衛と国制整備につとめたが、徴税と徴兵を行うために最初の全国的な戸籍を作成した。この戸籍のことを何というか。
9. 天智天皇の死後、皇位継承争いである壬申の乱に勝利して即位した天武天皇には強大な権力が集中した。天武はこれを利用して国家機構を組織し、豪族を新しい姓(カバネ)に再編成した。「真人、朝臣、宿禰、忌寸、道師、臣、連、稻置」の八つの姓の制度のことを何というか。
10. 天智天皇は律令の制定に着手したが、完成を見ないまま死去した。天武天皇の皇后が持統天皇として即位してこの事業を受け継ぎ、天武・持統の孫である文武天皇の時代の701年に、我が国において初めて律令ともに備わった法典が完成した。この法典を何というか。

1	6
2	7
3	8
4	9
5	10

採点者

点数